

第 120 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 3 年 9 月 2 日(木) 15：30～16：30

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

1 参加者

玉城 知事、謝花 副知事、照屋 副知事、島袋 政策調整監、平識 秘書防災統括監、池田 総務部長、儀間 企画調整統括監、普天間 環境企画統括監、金城 県警本部警備第二課長、大城 保健医療部長、名渡山 子ども生活福祉部長、下地 農政企画統括監、島袋 土木建築部長、嘉数 商工労働部、真鳥 観光政策統括監、大城 会計管理者、金城 教育長、我那覇 病院事業局長、長濱 企業企画統括監、諸見里 医療企画統括監、糸数 保健衛生統括監、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

2 報告事項

(1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

➤ 総括情報部から最新の新規陽性者及び療養者の状況について報告【資料 1】

- ✓ 9/1 の新規発生は 535 名、合計 43,210 名、入院中 712 名、うち重症 31 名、うち中等症 530 名、入院調整 2,115 名、宿泊施設療養中 326 名、自宅療養 3,002 名で療養中患者計 6,309 名となっている。

(2) 米軍基地内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

➤ 総括情報部から、米軍基地内における発生状況について報告。【資料 2】

9/1 時点、米軍基地内で 14 名。

(3) 沖縄県内及び全国の感染状況について【資料3、3-1~3-8】

- 総括情報部から、警戒レベル判断指標の状況や各種分析資料について報告。
 - ✓ 療養者数、病床占有率、重症者用病床占有率、新規感染者数、PCR 検査の陽性率は、第4段階にある。
 - ✓ 感染経路不明な症例の割合は第2段階にある。
 - ✓ 新規感染者数に減少の兆しが見られるものの、各指標は未だに高い状況である。
 - ✓ 国の判断指標では、療養者数、病床占有率、重症者用病床占有率、新規感染者数、PCR 陽性率、入院率の項目がステージIV相当となっている。
 - ✓ 非コロナ病床の利用率は91.8%となっている。
 - ✓ 直近1週間の人口10万人あたりの新規陽性者数は、286.32で、全国ワースト1位の状況。
 - ✓ 各保健所管内別の人口10万人あたりの新規陽性者数で見ると、中部で大きく減少しているものの、他の保健所管内では、はっきりとした減少にまでは至っていない。
 - ✓ 重症・中等症者の人数は高止まりしており、医療のひっ迫が続いている。
 - ✓ 沖縄県疫学統計・解析委員会の分析では、実効再生産数は0.90となっており、ピークを越えつつあるが、全国的に見れば高いレベルの感染状況であると報告されている。

(4) 宿泊施設の運用状況について【資料4】

- 総括情報部より、宿泊施設の運用状況について報告。
 - ✓ 那覇市は2カ所が稼働しており、合計176人が療養中である。
 - ✓ 中部では1カ所が稼働しており、60人が療養中である。
 - ✓ 他の地域については、北部で42人、宮古で30人、八重山で31人が療養中となっている。

(5) 沖縄県人口変動状況について【資料5】

- 総括情報部から、KDDI Location Analyzer による分析結果を報告。
 - ✓ 繁華街エリアでは人流の減少が続いているが、商業エリア及び空港エリアでは増加に転じている。

(6) クラスターの発生状況について

- 時間の都合上、説明を割愛。

(7) 宮古・八重山地域の感染状況について【資料7】

- 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 先週と比較して、感染者数はほぼ半減しており、陽性率も低下してきている。
 - ✓ 年代的には20～40代が多いが、10歳未満の子どもの感染者も比較的多くなっている。子どもについては家庭内感染が主であり、保育園等で感染が広まっているわけではない。
 - ✓ ただし、感染防止対策が徹底されていない保育所・学童等もあることから、注意喚起を継続する必要がある。
 - ✓ 多良間村で確認された患者3人については、宮古島に移動し、治療を行っているところである。また、宮古病院から医師・看護師を多良間村に派遣し、接触者に対する検査等を実施したところである。
 - ✓ 現在、宮古地方本部では、関係機関との情報共有の仕組みの構築、医療連携体制推進、必要な人員の確保について検討を進めているところである。
- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 8/25～9/1の患者の発生数は、182人となっており、先週よりもやや増加している。

- ✓ 管内の高齢者施設での集団発生が確認されており、60 歳以上の患者が増えている。
- ✓ 当該施設については、DMAT 等の応援を受け、対応を進めている。また、抗体カクテル療法の実施も進めているところである。
- ✓ 施設関連以外でも、八重山の周辺離島において会食等による感染事例が確認されていることから、石垣島への移送について関連機関と調整を進めているところである。

(8) PCR 検査事業の状況について【資料 8】

➤ 総括情報部から、検査事業実績について報告。

- ✓ エssenシャルワーカー定期 PCR 検査の実績について、8/21～8/27 は、介護関係者 8,659 人が受検した結果、18 人が陽性であった（陽性率 0.21%）。また、障害者施設関係者 4,012 人が受検した結果、8 人が陽性であった（陽性率 0.20%）。保育施設関係者については、3,392 人が受検した結果、4 人が陽性であった（陽性率 0.12%）。
- ✓ 安価な PCR 検査補助の実績について、8/20～8/26 は 14,084 人が受検した結果、陽性者 531 人、陽性率 3.77%であった。
- ✓ 飲食店検査の実績について、8/21～8/27 は 421 人が受検した結果、陽性者 15 人、陽性率 3.56%であった。
- ✓ モニタリング検査の実績について、8/16～8/22 は、4,674 人が受検した結果、陽性者は 2 人であった（0.04%）。
- ✓ 学校 PCR 検査の実績については 596 人（34 校）が受検した結果、陽性者 5 人、陽性率 0.84%であった。

(9) ワクチン対策チーム進捗状況について【資料 9】

- 総括情報部から、住民向けワクチン接種の進捗状況等について報告。
 - ✓ 1 回目のワクチン接種が完了した人は 751,326 人となっており、接種率（県全体）は 50.7%となっている。
 - ✓ 2 回目のワクチン接種が完了した人は、586,062 人となっており、接種率（県全体）は、39.6%となっている。
 - ✓ 広域ワクチン接種センターにおける、ワクチン接種回数の増加、若い世代（20 歳～39 歳）を対象とした接種日（水・土）の設定を行う等、ワクチン接種の推進を図っているところである。

(10) 空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の運用状況等について【資料 10】

- 文化観光スポーツ部から、空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の状況について報告。
 - ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、8/23 の週の受検者は 3,061 名で、その内 24 名が陽性であった。
 - ✓ 那覇空港抗原検査について、8/23 の週の受検者は 1,106 名で、その内 9 名が陽性であった。
 - ✓ TACO について、8/23 の週のサーモグラフィー通過者は 100,232 人で、その内発熱者は 0 人であった。
 - ✓ RICCA について、8/27 時点の登録者数は 112,741 人となっている。

(11) 緊急事態宣言下の取組状況について【資料 11-1～11-4】

- 総括情報部から、全国からの看護師の派遣状況について報告。
 - ✓ 現在のところ、全国知事会から 4 名、厚生労働省から 44 名、合計 48 名の看護師について派遣いただき、応援を受けた。

✓ 8月中旬以降、応援期間を終了する看護師が増えることから、今後の看護師の確保について検討を進めている。

➤ 時間の都合上、緊急事態措置早期解除に向けた県の取組計画については、各自での資料の確認を依頼し、説明を割愛。

➤ 総括情報部から、飲食店における感染者数及び移入例の件数について報告。

✓ 飲食店が推定感染源となっている感染者数については、2週連続で減少しており、8/22の週は184人となっている。

✓ 移入例についても、2週連続での減少となっており、8/24の週は56件となっているが、県外来訪者の感染事例が依然として多く、対策の継続が必要である。

(12) 各部局の取組状況について【資料12】

➤ 時間の都合上、説明を割愛。

(13) 緊急事態宣言解除及び経済活動再開に向けた見通しについて

➤ 総括情報部から、緊急事態宣言除及び経済活動再開に向けた見通しについて説明。

◆ 見通し作成の目的について

✓ 緊急事態宣言の長期化により、県民は自粛慣れしており、感染対策が十分とは言い難い状況である。また、経済界においては、先行きが見えない状況であり、計画的な事業活動再開の計画が立てづらい状況である。

✓ そこで、感染対策を徹底した場合の見通し及び、対策緩和の見通しを県民・関係団体と共有することにより、今後の経済再開に向けた感染対策の徹底に繋げることを目的としている。

◆ 今後の見通しについて

- ✓ 療養者数、新規感染者数ともに高水準となっており、人流抑制や感染症対策の徹底により実効再生産数を下げたとしても、新規感染者数が緊急事態宣言前の水準に戻るには一定の時間を要する。
- ✓ 一方で、ワクチン接種が一定程度進捗することを考えると、今後、重症・中等症患者の減少が期待されることから、大規模集客施設土日休業要請を開始した際の新規感染者200人程度から、4月のまん延防止措置に移行した際の100人程度までを段階的解除期間として、緊急事態措置・まん延防止措置の解除等、徐々に対策を緩和する。
- ✓ 段階的解除の内容は、大規模集客施設の土日休業要請の解除に始まり、県立施設の再開、飲食店（認証店）での酒類提供、経済活性化取組の展開と続くことを想定している。
- ✓ 段階的解除期間は、前週比0.8の新規感染者数で推移するケースでは、10月頭頃から10月末頃まで、また、人流抑制等の対策を徹底し前週比0.7で推移するケースでは、9月中旬頃から10月上旬頃と推計される。
- ✓ なお、これらの検討においては、他指標や変異株の動向、医療提供体制等の負荷など様々な要素を考慮し、国との調整の上、専門家等の意見を踏まえた上で方針を決定する。
- ✓ 緊急事態措置やまん延防止措置の解除後において、感染拡大の兆候が見られるときには速やかに抑制策を再開する。

(14) その他報告事項について

- 病院事業局から、県立病院の状況等について報告。
 - ✓ 9/2時点の県立病院の入院患者数は188名となっている。
 - ✓ 各県立病院別の入院者数で見ると、北部病院と中部病院がそれぞれ50名を超

えている状況である。

- ✓ 中部病院では ECMO を利用する患者の増加に伴い、職員の負担が増えており、現場から患者数を減らすための対策が必要との意見があった。
- ✓ 八重山病院では、老健施設入所者等の介護が必要な患者が多い状況である。また、管内で複数のクラスターも確認されており、今後も患者が増えるとの予測があることから、病院内の体制を整備しているところである。

➤ 統括情報部から、高齢者施設での抗体カクテル療法の実施について報告。

- ✓ 八重山地区の高齢者施設の入所者の治療のため、施設内での抗体カクテル療法を実施した。
- ✓ 抗体カクテル療法は、医療施設でなければ実施できないことから、関係機関と調整を行い、当該施設を臨時の医療施設とし、治療を行ったところである。

(報告(1)～(14)に関する発言等について)

- ✓ 宮古地方本部の報告において、感染予防対策が徹底されていない保育所・学童があるとの報告があったが、具体的にどのような事例があるのか質問があった。
→宮古地方本部より、保育所・学童において保育士と園児と一緒に食事をしている、食事時の座席が定められていない等の事例を報告。
- ✓ 八重山管内において、患者の搬送を実施する事例が増えているが、民間の交通機関を活用した搬送を検討しているか質問があった。
→八重山地方本部より、八重山の離島からの患者搬送については、民間客船を活用した搬送を検討しており、客船の運営会社と協議中であることを報告。
- ✓ 緊急事態措置解除の基準について、現在、県が検討している基準と国が示す基準の違いについて質問があった。
→総括情報部より、国の判断指標では、1日あたりの新規感染者数が10万人あた

り 25 人を下回ることを求められるが、県では専門家の意見等を踏まえ、県内医療が耐えられるレベルとして、1 日あたりの新規感染者数が 10 万人あたり 100 人とする等、国の基準も参考にしながら、県独自の事情やワクチンの効果等を考慮した基準を設けていると回答。また、県独自の基準については国に説明しながら、適切に運用していくと説明。

- ✓ ワクチン接種者のブレークスルー感染により、未接種者がワクチンに否定的なイメージを持つ恐れがあることから、ブレークスルー感染自体の数は少なく、ワクチンの効果は確実にあることを示してはどうかとの意見があった。
→総括情報部より、ブレークスルー感染は起こりうるものの、ワクチンは効果があることについて周知を行っていくと回答。

4 その他

特になし。

5 閉 会